

カトリック 仙台教区報

2001年12月20日 NO.143

発行
カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax (022) 222-7378

編集責任者 田中丈夫

URL: <http://sendai.catholic.jp/>

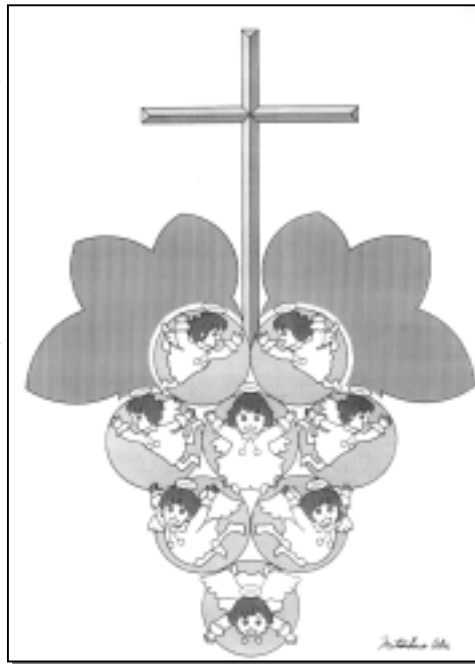
子供が主役 クリスマスによせて 仙台司教区 司教 溝部 脩

イタリアで学んでいた頃、私は素敵な中年のご夫婦と親しくしていた。公務員で経済的にも恵まれ、住んでいる家もすばらしく、郊外にはセカンドハウスをもち、週末はそこで優雅に過ごしていた。私も幾度ともなくその家に招待されて、週末を共に過ごした。暖炉を前に傾けたワインのグラスと燃える薪のにおいは、青春の一時の忘れ難い思い出である。その理由はとも角、彼らは『ことも産まない』という選択を当時からしていた。昨年、一通の手紙を受け取った時、記憶の奥にしまいがまわっていた想い出が鮮やかに蘇った。その手紙には、二人とも老いたこと、私に会いたいこと、しかし、会った時に自分たちの老いの哀しみを偉くなった私に（？）さらけ出さないといけないのが苦痛であることなどが、くどくどと書かれていた。一瞬あの優雅な想い出と、どっしりした家具のある家はどうなっているだろうと想像した。そして、自分たちが選択したその結果は、たとえそれがどんなものであっても、自ら

背負っていかないといいけないものだとは感じ取った。私は児童養護施設に数年勤めた。その時にかかわった子供たちは卒園して、実にまめに連絡してくれる。幼少の頃、家庭に恵まれなかったこともあり、家庭を大切に。必ず二人から四人、

慰めを頂いている。その頃高校生活動を共にしていた女性などは、結婚して三人目の子供の時自然分娩をすると宣言して、家族全員に見守られて出産した。「産まないのが常識」となっている感がある現代において、彼らは決して恵まれていない中で「産む自由」を選択している。彼らはそれを当然のよう受け止めていて、産んだことに喜びを感じ、周りにもそれを与えてくれている。

クリスマスは幼子イエスのその誕生を祝う日である。マリアはイエスを産むという決意をしている。そして、その結果を彼女は自分の人生の全てにおいて受け止めたのである。何とはなしに、子供が生まれたというのとは随分違う。子供ができたから結婚しようというのでもない。子供を産むことにいのちを燃やし、そして、子供を通して自分の人生のありようを選択しているのである。彼女が子供がどのような人生を送るのかわ見えなかった。しかし、子供とともに自分の人生があることを信じていた。従って、産むことを選択したことにおいて、悔むことはあっても、決して悔いることはなかった。マリアの人生はイエスと共にあり、イエスを通して人生の意味を理解した。産むか、産まないか、これは確かに両親の選択である。どちらを選択するとしても、その選択の結果と責任を親は背負っていかないといいけない。信仰をもって産むか、産まないかを選択する、これが信仰者の態度である。だから、その選択は決して自己本位の便宜を優先させるものであってはならない。カトリック教会は、夫婦の愛情を深めるためにも、子供は神様からの授かりものであるとの考えを伝統的に守ってきた。そして、それは現代も少しも変わっていない。産めない事情があるのを百も承知の上で、『産まない選択』をするより、『産む選択』をして欲しいと現代の若者に私は願う。信仰により産む決意をして、そして生まれてくる子供はまさに授かりものであり、私たちの世界の主役なのである。



クリスマスは幼子イエスのその誕生を祝う日である。

五人という子供を彼らは産んでいる。二世誕生の知らせは定期便のように私のもとに届けられる。誇らしげに子供を抱いている写真であったり、裸の子供をこれみよがしにアップで写していたりする。その子供がまた『おじいちゃん』といって私に寄ってくるので、私としても可愛くて仕方がない。彼らの就職の時の保証人、進学のための保護者となった私は、今では彼らに支えられて最高の

マリアはイエスを産むという決意をしている。そして、その結果を彼女は自分の人生の全てにおいて受け止めたのである。何とはなしに、子供が生まれたというのとは随分違う。子供ができたから結婚しようというのでもない。子供を産むことにいのちを燃やし、そして、子供を通して自分の人生のありようを選択しているのである。彼女が子供がどのような人生を送るのかわ見えなかった。しかし、子供とともに自分の人生があることを信じていた。従って、産むことを選択したことにおいて、悔むことはあっても、決して悔いることはなかった。マリアの人生はイエスと共にあり、イエスを通して人生の意味を理解した。産むか、産まないか、これは確かに両親の選択である。どちらを選択するとしても、その選択の結果と責任を親は背負っていかないといいけない。信仰をもって産むか、産まないかを選択する、これが信仰者の態度である。だから、その選択は決して自己本位の便宜を優先させるものであってはならない。カトリック教会は、夫婦の愛情を深めるためにも、子供は神様からの授かりものであるとの考えを伝統的に守ってきた。そして、それは現代も少しも変わっていない。産めない事情があるのを百も承知の上で、『産まない選択』をするより、『産む選択』をして欲しいと現代の若者に私は願う。信仰により産む決意をして、そして生まれてくる子供はまさに授かりものであり、私たちの世界の主役なのである。

「生誕の泉」は内頁へ移動しました。

イラスト 阿部菜浩 塩釜教会

青森 弘前教会

九月二十九日(土)、三十日(日)の二日間、溝部脩司教様をお迎えして黙想会が行なわれました。一日目は午前六時三十分から司教様の講話があり、ヨハネ福音書の第四章「イエスとサムリアの女」について聖書研究の形で進められました。

私たちは、司教様の講話を聞きながらこれから信徒としてもっともと聖書を勉強しなければならぬということを感じました。当日は、司祭、シスター、信徒合わせて四十人程度参加し、僅か一時間余りでしたが、みこばを深めることが出来ました。

二日目は午前九時三十分から溝部司教様の司式でミサがささげられました。当日はいつもより出席者が多く、他の教会からも何人かおいでになっていました。ミサの後に当教会のポイスカウト・ガールスカウト発団三十周年記念の植樹祭が行われ、司教様もこれに参加なされ植樹されました。植樹祭の後、司教様と司祭、シスター、信徒の

皆さんとの昼食会が開かれました。食事の後、司教様からご自身の生い立ちやいろいろなエピソードなどのお話があり、和やかな雰囲気のうちを終えることが出来ました。

岩手 遠野教会

(石澤)

遠野教会の根は明治元年にさかのぼります。後に遠野農協組合の初代会長として大活躍した海老久太さんが、遠野で最初の家庭教会を作ったのが始まりでした。「わたしはミカエルなり、だれが神になるぞ」と将校時代の写真に書き残した健太郎、又、この地方

各地から

の最初の司祭となったラファエル弥六神父は海老久太さんの息子です。五十一年前、ちょうど岩手県地区を司牧することになったベトレム宣教会は、この民話の故郷：遠野の切り株の上に最初の教会を建てました。その切り株の上に建った教会は福音の光を沿岸までではなく、次々と大船渡、釜石、宮古教会が誕生したのです。母なる教会は現在五〇数人の小さな教会として頑張っています。二〇年前都市計画によって教会と幼稚園は大移動をし、市から広い土地と立派な建物をいただ

きました。当時教会は、田圃の中の一軒家でした。今は立派な道路もでき住宅街となりました。その中にある小さな教会の御堂にはきれいなステンドグラスが輝きを見せ、それは教会の宝となっています。

教会の幼稚園を卒園した三三

二五人の子供たちによってこの地方に少しずつでもキリスト教的考え方が浸透していくことを希望しています。二〇〇一年九月二十五日、遠野教会の保護の聖人聖ニコラオ・デ・フルエの祝日に五〇周年記念誌を発行しました。(マックス・エンデルレ神父)

宮城 塩釜教会

塩釜教会は二〇〇二年九月創立五十周年を迎えます。

創立五十周年を迎えます。それに向けての動きが始まっているところですが、今私の手許に一枚のご絵があります。それは一九八三年の三十一周年記念の御聖堂のマリア様の写真で、裏には次の聖句が記されています。「わたしのこの命令は、清い心と正しい良心と純真な信仰とから生じる愛を指すものです。」(一テモテ一・五)この時から十八年経た現在の塩釜教会には、この「言葉」を生きている方が沢山いるという実感を持ちます。塩釜市と周辺の三市四町から約五十家族がミサに与りますが、子供の数が多く賑やかなことは何よりのお恵みでラシャペル神父

様は子供の宗教教育の重要性をいつも説かれています。五十周年を迎えるにあたりこの「言葉」が子供達に受け継がれていく事を願っています。

福島

(永澤)

二本松キリシタン殉教祭 第十一回二本松キリシタン殉教祭が十一月三日(文化の日)に溝部脩司教区司教をはじめ七十名が参加して行われた。(写真)

最初に二本松教会でキリシタン研究家高木一雄氏(神奈川県藤沢教会所属)による「島原の乱と仙台領キリシタンの捕縛」と題した講演が行われた。この中で、島原の乱は農民一揆だったが島原藩は幕府に「キリシタンが扇動した」と報告し、このため幕府のキリシタン弾圧が一段と厳しくな



り、宣教師が最後まで活動していた東北地方にまで及んだと解説した。次に、殉教地である阿武隈川河畔の供中(ぐちゅう)河原で左記の十四名のキリシタンが処刑された。

バレンチノ中牧主水と妻アンナ、その子シメオン才兵衛とアレキシス権四郎・ヨハネ町田宗賀・マテオ六兵衛と妻アグネス、その子ルイス喜太郎とロマネス三十三郎・道川加左衛門・ヒエロニモ助之丞・仙助・喜作

大人五人は火焙り、女性・子供は斬首であった。バレンチノ中牧主水は二本松領白岩村(現・安達郡白沢村白岩)にあった信者の団体である組織の指導的な人物で、ヨハネ町田宗賀は長崎の人であった。

さらに十数年後二本松城下をはじめ白岩村、稲沢村、大槻村、根崎村、片平村、松沢村等の二本松領から多くのキリシタンが江戸送りとなった。

この中には最後まで信仰を捨てないで拷問のため小伝馬町で牢死した八人も含まれていた。

同殉教祭は二本松教会の主催として、一九九二年から毎年開催されている。(勝又)



平和の祈り

《カトリック浪打教会》

小学6年 斎藤浩太
アメリカのテロ事件では、たくさんの方が犠牲になりました。全く関係のない人達がぎせいになったことは、とても悲しいことです。でもアメリカはタリバンに返しをしようとしていません。仕返ししても、また仕返しされて、関係のない人達がぎせいになるだけで何も意味がないと思います。だから、話し合いで解決して、はやく、平和な時がくることを願います。

失敗 成功

高校1年 加藤みゆ

私の最近の教訓は、「失敗は成功のもと」です。前まで小テストで少し間違っていたりして「あーあ」と気にしすぎた所がありました。今は、失敗を気にするのはなく、それを生かして成功へと少しずつ積み上げていこうと思うようになりました。人はある程度の失敗がなければ成長できないと思います。その数々の失敗の中で、私たちは大きな

ものを得ることができません。それは戦争でも同じです。特に日本は、平和主義という大きな柄を



確信、一日でも早く世界が平和になるように祈りたいと思います。

《カトリック郡山教会》

小学6年 今富友絵
神様、クリスマス前にテロや戦争がおきています。話し合いによって、一日でも早く解決し、世界の人々が幸せな気持ちで、クリスマスと新しい年を迎えられますように。

小学6年 村越直子
今、世界の中で多くの子供たちが戦争や、貧しさの中で不安におびえた生活をしています。一日も早く皆が幸せにくらせますように。

小学2年 浜津 薫
神様、いつもわたしたちを助けてくださって、ありがとうございます。世の中には、かわいそうな人たちがいます。その人たちにも、平安をおあたえください。

《カトリック原町教会》

さゆり幼稚園

斎藤 志(のぞむ) 3才

あのね、ケンカしたらね、神様にお祈りするの。父と子と聖霊とのみなのよってアーメン。みんながおりこうさんになって仲良しすればいいの。ごめんねするんだよ！

さゆり幼稚園

斎藤 歩(あゆみ) 5才

かみさま、びょうきの人たちのことをたすけてください。あと、アメリカのひとたちのことたすけてください。おかねとかがないひとたちもたすけてください。かみさま、まずしいこともたちとおとなたちもたすけてください。今、こまつているひとたちもつてください。

さゆり幼稚園

おのどもえ 3才

アフガニスタンの子どもたちにはさむくてたべるものがないです。かみさま、おねがいです。日本にいるぼくたちとおなじようにげんきになれますようにたべものをあたえてください。

小学1年

おのどもえ

アフガニスタンの子どもたちにはさむいし、たべるものがないです。サンタさん、ぼくのぶんのプレゼントぜんぶあげてください。げんきになれるようにたべものもどうぞあげてください。おねがいします。

小学四年 青田常雅
アフガンの人たちは、戦争が

おきてつみのない子供たちや大人たちがケガをしたり、ころされたり、戦争につれて行かれたり、家族とひきはなされて悲しい思いをして苦しんでいます。ぼくが今できることはほんの少しだけ、ぼくのためたこずかいをば金したいと思います。少しのお金だけれど何かの役に立ってほしいとおもいます。神様におねがいします。早く戦争が終わり苦しんでいる人たちに幸せがおとずれますように世界中の人たちも幸せになりますように神様においのりします。

大好きな夜に…音を通して伝えたいこと

鈴木絵利羽

空を見上げると、夢のような世界がひろがっていました。真っ白で、とてもきれいでした。もう四、五年前になるでしょうか。私は早くから教会へ出かけ、準備をしていました。そう、今宵は待ちに待ったクリスマススイプ。その日は私は、幼なじみ達とクリスマススイプのお手伝いをして過ごしました。(私は小さい頃から毎年これをやっていた。)七時のミサだけではなく、十一時から深夜ミサも手伝いました。(当時の私達はこれだけではない。翌日二五日、朝九時からのクリスマスミサまで手伝っていたのだから、今考えるとすごい。)でもお手伝いと言っても、皆それぞれ心構えをしてミサに授かっています。深夜ミサが終わり、外へ出たときのこと。空は、雪でいっぱいでした。それは…とてもきれいでした。

でした。

そう、だれもが夢みる、ホワイトクリスマス。私はその夜のことを、今でも忘れていません。冬になるにつれ、気持ちがあたたかくなるのは私だけでしょうか。冬休みがあるし、スキーができるし、みかんが食べられるし…。(これが好きなこと)十二月が近づくと、街は色鮮やかな飾りで明るくなって、カワイイものいっぱいになる。うれしいことだらけ。

でも、やっぱり。やっぱり私の一番は、クリスマス。一年に一度、たくさん仲間が集まって、お祈りできること。心をひとつにできること。そして、愛する仲間と共に、クリスマス、「とき」を過ごせること。これが私にとって、何よりもうれしい、一番うれしいことです。

クリスマス…うれしいこと、楽しいこと、たくさんあるかもしれない。でも、忘れないで。みんながそうではないってこと。こうしている今も、困っている人、苦しんでいる人がいるってこと。幸せにクリスマスを迎えられない人がいるってことを。

今夜、クリスマス(O'night)で、ヴァイオリンを弾きます。みんなの一人として、みんなと共に弾きます。私の思いも込めて、みんなの思いも込めて心に届くように…。心をひとつにできる、この大好きな夜に…音を通して伝えたいことが、私にあります。

活動紹介

「いのちの電話」

「いのちの電話」は、自殺を尖端とする様々な心の悩みを電話を通して聴くことにより、掛け手の危機脱出の糸口となることを願う市民活動です。本居宣長は、「言っても仕方のないことでもそれを聞いて貰い、そうですと受け止めて貰うことで心が晴れる。それが人情の自然である」と言っています。このような

とき、よい聴き手になろうとするのが「いのちの電話」活動といえるでしょう。

この運動は、一九五三年「ザ・サマリタンス」という名前でロンドンで始まりました。だれかに話を聴いて貰ったらたちどころに解消したであろうことを独りで思い悩み、ついに自殺してしまつたいたいけな十二才の少女の死を嘆き悲しんだ国教会の牧師チャドバラー師の着想によるものです。この運動はたちまち世界中に広まり、日本でも四十八局が、毎年鰻登りに増え続ける電話を聴いています。電話の内容も人生

の問題から、家族、対人関係などなど、人生の途上で遭遇するであろうあらゆる問題を含んでいきます。

この電話を、約二年に及ぶ研修の後、秘密を厳守することを誓つて認定された電話ボランティアが、絶えず研修を重ねながら親身になつて聞き続けております。どうか皆様「いのちの電話」のために祈りくださいますようお願い申し上げます。

修道院紹介

オタワ愛徳修道女会
弘前修道院

の跡地に念願の修道院の建物が完成しました。公園の側で静かなところですが、稲荷神社あり、道徳会館があり、稲荷神社あり、道徳会館などがあります。八百万の神々の中におり、恵まれた環境の中で現在四名の姉妹が共住し、清水水老人ホーム、清水水学園に奉仕させていただいております。地域の人々との関わりを大切に、種々の機会を使いながら、地域に根ざした共同体作りをしているところです。

私の気分転換

聖トミニコ学院高等学校
佐藤英樹

作家曾野綾子さんの書かれたものを読むのはいつも楽しい。それも小説よりは随筆、



辛口の鋭く切り込んだ社会批評的なものが特にいい。教え諭されること多く、しばしば快哉を叫ぶ。しかしただ一つ私の意にそわないことがある。それは、曾野綾子さんがモーツァルトを聴かないと書いてることだ。

彼の音楽には哲学が感じられない、明るすぎて悲しみと陰影

がない、といわれる。仙台モーツァルト協会の会員の一人として、誠に残念に思う。

この稿を書きながら交響曲第二五番ト短調（あの映画「アマデウス」の冒頭の曲）を聴いている。この曲や第四十番ト短調に、アヴェ・ヴェウエルム・コルプスやレクイエムに哲学は感じられないのだろうか。だれもが好きな作曲家なのに。曾野さんは変わっている。変わっているから作家なのだ。

まあいいか。曾野さんの本を読みながら、今日もモーツァルトを聴こう。

生命の泉

.....

岡目八目という言葉葉がある。ワキからのぞき込んで自分なら完璧な手を打てるというふうな思いこみからのアドバイスをする。しかし、それはあくまでも第三者であつて当事者ではない。今回の同時多発テロ事件では否応なく当事者になつた。豊かで紛争のない国にいて、紛争は我が国には関係がない筈であつた。それが巻き込まれる危険を自覚させられたのである。豊かさも平和もただで得られない。ブッシュさんはこの軍事行動に果敢にリーダーシップを発揮したということだ。勿論、テロの凄惨さを

考えると報復行動も分らない訳ではない。しかし、その解決が最良であるかどうか。報復が報復を呼んで将来に禍根を残すことは過去から学んでもよいことである。争いの解決に暴力を使つたら負けだ。紛争後の国の建て直しにイタリヤに亡命中の元国王が表舞台に登場した。紛争の後では各部落の利害の衝突は避けられず、国王は各部落の垣根を超えて統一を図る立場を取れるからである。しかし統一が実現するためには自己主張より他部落の主張に耳を傾けなければならない。それが出来るだろうか。当事者であればこそ冷静な対応が求められる。私たちの自己主張は正義の実現には王よりもっと私たちの立場を相対化される方の出番がなければならない。

カテドラルの

クリスマスミサ

二十四日 午後七時
午後十一時

二十五日 午前九時三十分

カトリック元寺小路教会

お問合せ(二二二)五五〇七